

---

# はだしのままで

MIST

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

はだしのままで

### 【Nコード】

N7168A

### 【作者名】

MIST

### 【あらすじ】

とても短い恋心。原稿用紙2枚のストーリーです。

今日は来るんじゃないかって思っていた。

思いながらも、私は机の上にケーキを置いた。丸くて大きなイチゴのケーキ。私一人では食べきれない程の量だ。

私はケーキにロウソクをたて並べる。去年より一つ増えたロウソクは若干、悲しさを伝えるが、私は気にしないように火を付けていった。

最後の一本に火を付け終わった時、ふとあの人を思い浮かべた。去年のクリスマスに一緒だったあの人。今日のこの日こそいて欲しいあの人。その人は、今はいない。

来てほしいな……

一緒に笑ってケーキを食べていた。あまりの甘さに、苦笑いをしたあの人。私のケーキからイチゴだけを奪っていた。本当に、ここにいてくれたなら。

なんて玄関を見ると、急にチャイムが鳴った。いつもなら機械的なそのチャイムに、私は暖かさを感じるわけがなかった。ドキッと高鳴る鼓動をよそに、私は駆け出した。あの人が来たと。それ以外を思うことなく飛び出した。

青い空がとても綺麗で、道の上には散った桜の花びらが風に舞い。

遠くからは笑い声と、逃げると言う少年たちの掛け声。

私は駆け出した。

少年たちに被ったあなたの姿を追って。

ああ、こんなにも。私はあの人に逢いたいんだ。この気持ちはきつと、誰にも変えることなんてできやしない。ピンポンとチャイムを鳴らした。これだけチャイムにドキドキするのは、今日くらいなものかもしれない。

あなたは何て言うのだろう。

白い雲の浮かぶ空。ほんのり暖かな風が吹いて、あなたは扉を開け

て姿を現した。

あなたは私の姿を見て笑った。それを見て、私もようやく気付いた。  
「あなたの事が、好きです」  
と。

（後書き）

滅多に書かない恋愛ものを始めに投稿してしまいましたが：いかが  
だったでしょうか？当人、砂を吐きそうな気分ですが、気に入って  
いただければ幸いです。^^

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7168a/>

---

はだしのままで

2010年10月9日14時20分発行